

発達初期の理解語彙の獲得 ()

育児記録の分析 (1)

発達科学研究教育センター 田中規子
発達科学研究教育センター 阿部五月
発達科学研究教育センター 藤永 保

Understanding of Language in Early Development () Analysis of Child-care Records (1)

Center of Developmental Education and Research TANAKA, Noriko
Center of Developmental Education and Research ABE, Satsuki
Center of Developmental Education and Research FUJINAGA, Tamotsu

本研究では、出生直後から満3歳までの育児記録をもとに、母子のコミュニケーション行動の発達の变化をみるとともに、身体的発達や周囲との相互作用と並行してことばの理解がどのように進んでいくのかを分析することを目的とする。本論文はその第1稿で、カテゴリーの分類など、育児記録の分析方法について述べる。分析結果については第2稿で報告する。

【キー・ワード】理解語彙, コミュニケーション行動, 身体的発達, 発声行動, 育児記録

The aims of this study are to investigate the developmental changes of mother-child communication behavior and the progress of language-understanding that is going with physical development and interaction with environments, based on the child-care records of young children from birth to 3 years of age kept by their mothers. In Study 1 (this paper), we describe how we analyze the child-care records. The results of the analysis are reported in detail in Study 2.

【Key Words】Understanding of language, Communication behavior, Physical development, Vocal behavior, Child-care records

はじめに

本論文は、発達初期の理解語彙の獲得過程について総合的に捉えようとする研究の一部である。この研究で、これまでにわかっていることは次の通りである。()質問紙調査からは、障害児と健常児の言語発達における違いが2点明らかになった。1つは、障害児では息を吐きながら唇を震わせて「ブー」という音を出し、ツバをとばしたりする行動が少ないこと、もう1つは、早期獲得語彙が障

害児と健常児とで大きく異なっているということであった。また、健常児についてだけ見ると、早期教育を受けた子どもたちはことばの理解は早いですが、発話の時期や発話語彙の数では早期教育を受けていない子どもとあまり差がないということがわかった。()家庭訪問調査では、順調に発育している4人の乳幼児を約2年間観察する中で、言語理解については個人差はあるもののおおまかな順序性が示唆された。発話については、発話時期や内容に子どもによって大きな差が生じた。また、絵カードを用いた選択課題では、表象の理解が意外に早いことはわかったが、刺激について十分理解できていると思われる時期になっても課題の成績が上がらない子どももあり、課題場面ではルールの理解を含めてことばの理解以外に様々な要因が働くことも明らかになってきた。

本論文では、母親の育児記録に基づいて、出生直後からの母子のコミュニケーションについて細かく分析し、養育者とのかかわりの中で、どのようにして身近な人や物、状況などの理解からことばの理解へとひろがっていくのかを検討することを目的とする。発達初期の語彙理解についての一連の研究では、質問紙・個別調査・育児記録の分析という異なる研究方法を用いることによって、さらに明確な結果が得られることが期待される。

方 法

1. 育児記録の収集

出生直後から3歳までの子どもの育児記録の収集は、K教育研究会独自の育児支援制度で毎月会員から送られてくる報告書を利用した(K教育研究会独自の育児支援制度については、田中他(2000)参照)。報告書は月齢によりばらつきはあるが、全体で毎月約80通回収されている。

調査期間：2002年9月から2004年8月までの2年間

調査対象：調査期間内に上記の育児支援制度に登録している会員

2. 記録の内容

報告書はA3用紙1枚で、その裏面に毎日の子どもの様子などを記録するようになっている。記入方法は基本的に自由記述だが、この調査をするにあたって、ことばとコミュニケーションの発達に関する10項目を提示し、なるべくそれに沿った内容の記入を求めた(表1参照)。

表1. 「コミュニケーションとことばの発達」に関する項目

コミュニケーション行動
発声行動(ことばを発する前の音声・喃語の変化)
泣き方、笑い方の変化
話しかけに対する反応、感情的な発声に対する反応
家族の名前に対する反応
模倣
言語理解(耳で聞いてわかること、簡単な用事でできること)
指さしについて(指さした物、状況、同時に発したことばなど)
ジェスチャーによる理解・意思表示
発話内容(単語、2語文、3語文)
その他

また、記入者の理解を高めるため、これらの項目に関する詳しい説明と記入例も配布した（資料1参照）。

3．分析カテゴリーの分け方

生後0ヶ月から6ヶ月までの子どもの育児記録をもとに、身体的発達・操作，コミュニケーション行動，発声行動，学習項目の4カテゴリーに分け、さらにその下位項目を作成した（資料2参照）。

身体的発達・操作：育児記録をつけるとき、特に歩行ができるまでの時期は、身体発達は最も親の関心を引く分野である。また、今までできなかったことができるようになったという点では、操作に関する記述も多い。資料2に挙げた項目は、0ヶ月から6ヶ月の乳児のデータに基づいたものであるため、視覚、聴覚の発達、手足の大きな運動等が中心になっているが、今後、6ヶ月以降のデータの分析をすることにより、手指の細かい動きやより複雑な操作、歩行等の運動などを加えていく予定である。これらの分析は、調査対象児の発達の全体像を把握する上で重要である。

コミュニケーション行動：ここでは、抱っこや呼びかけに対する反応など初期の基本的なコミュニケーションから、人への興味や模倣、それに伴う発声の変化などを取り上げることとした。模倣に関しては、舌だし模倣や表情の模倣、動作や発声の模倣、親子間の相互模倣である循環模倣を区別した。また、感情的発声への反応がいつごろからみられるのかについても分析することとした。

発声行動：クーイングに続く前言語的音声を1音節の母音からいわゆる喃語まで4段階に分けて分析することとした。また、名詞、動詞、形容詞に加えて、擬音語と擬態語（レファレンスがあるもの）も分析対象とした。擬音語・擬態語は言語理解を促進する役割をもつものであり、それが親子間でどのような使われ方をしていくのかは興味深い問題である。

学習項目：K教育研究会では、生後すぐからの歌や絵本の読み聞かせなどを推奨しており、今回の調査対象者は父母いずれかがK教育研究会の社員であるため、そういった働きかけを行っている家庭がほとんどである。したがって、毎日の記録の中にも働きかけに対する子どもの反応などに関する記述が多くなり、絵本、歌、数唱、カードの4項目を設けることとした。

5．分析方法

データの入力にあたっては、調査対象児一人ずつ1ヶ月ごとに、資料2に示した各項目に該当する記述があるかどうかを調べることにした。つまり、その月に1度でもその行動が見られた場合には、個別集計表の該当欄に1と入力することになる。このような分析方法をとることによって、どういった項目がいつ頃多く見られるのか、また、それが他の項目とどのような関係にあるのか、といった項目間の関係が明らかになり、身体的発達や操作と並行してことばの理解がどのように進んでいくのかを捉えることができるであろう。

6. 分析にあたっての問題点

乳幼児の発達について調べようとするときには、多かれ少なかれ養育者の観察に頼らざるを得ない。いつも生活をともにしている養育者でなければわからない事柄が非常に多いからである。発達検査においても、たとえば、KIDS乳幼児発達スケールやマッカーサー乳幼児言語発達質問紙など、母親記入式の検査はいくつもあり、母親の記録や観察の信頼性は高いと言われている。したがって、本研究のもとになる母親による記録も基本的には信頼性に問題はないと考えられる。ただし、もともと自由記述式の記録であるため、調査について理解していない母親の場合、記録内容がいわゆるおでかけ日記のようなものであったり、単純に毎日読み聞かせた絵本のタイトルのみを記入するといったものも出てきてしまう。したがって、今回の分析作業においては、最初の2ヶ月はすべての子どもについて入力し、その時点でデータの有効性を判断することとした。

記録の内容で最も判断が難しいのは、喃語の信頼性である。たとえば、とうていまだ有意味語を話すとは思えない月齢で「おはよう」と言った、などの記述がみられることが多々ある。明らかに親ならではの聞き間違いだとわかる場合は判断しやすいが、個人差の範囲でそのことばを発してもおかしくはないという微妙な時期の場合などは非常に迷うことになる。今後の分析を進めるにあたって、喃語の記録について信頼性のレベルをはっきりさせることは大きな課題である。

まとめと今後の課題

赤ちゃんは早くから聴覚が非常に発達しており、様々な音を聞き分けることがわかっている。ほかの物音や無音状態よりもことばを聞くことを好むこと、さらに、他人の声よりも母の声により注意を向けるということもわかっている。このような赤ちゃんがもともと持っていることばへの敏感さは、母の働きかけによって目覚めさせられ、そのときの赤ちゃんの反応がまた母の働きかけを促進するというように、最初期から繰り返される母子の前言語的コミュニケーション行動は、その後の言語発達の基礎となるものである。

1歳頃までの音声言語行動の発達は個人差はあるものの、通常、泣く、クーイング、喃語、イントネーション・パターン、1語発話、という順序と言われている。このような経過と並行して、赤ちゃんは周囲との相互作用の中から様々なことがらを手がかりとして、人や物、状況の理解をしていくものと思われる。そして、それぞれの場面で随伴的に発せられる母のことばがやがて物や状況と切り離されて理解されるようになっていくのであろう。

母親の育児記録の中には、日常生活のいろいろな場面での母子のコミュニケーションの様子がわかりやすく記述されている。今回の調査対象は早期教育を推奨している会社の社員であるため、子どもの発達や育児に関して意識の高い親が多く、その意味では一般的な調査対象とはいいにくい点もあるが、記録の取り方は非常に丁寧で、有効なデータが多いことも事実である。喃語の信頼性のレベルを適切に設定することで、発話データとしての意味も大きい。今後、さらに分析カテゴリーを追加し吟味することで、乳幼児の基礎語彙とは何か、という問題への答えを探る手がかりとなることも期待できる。

また、母子のコミュニケーション行動を分析することは、障害を持った子どもの言語発達を考える上でも非常に有効である。たとえば、母への働きかけが弱い子どもの場合、母から子への働きかけも弱くなりやすいことは、よく知られている。育児記録の分析は、このような母子の相互作用に問題がある場合の改善方法にも役立つものと思われる。生後すぐから毎日繰り返される母子のコミュニケーション行動を分析することは、言語理解の過程を明らかにするとともに、言語発達遅滞の早期発見や早期療育にも有効な結果が得られるであろう。

参考文献

- 鹿取廣人.(2003). *ことばの発達と認知の心理学*. 東京：東京大学出版会.
- 阿部五月他.(2001). 発達初期の理解語彙の獲得()：家庭訪問調査(1). *発達研究*, **16**,15-31.
- 阿部五月他.(2002). 発達初期の理解語彙の獲得()：家庭訪問調査(2). *発達研究*, **17**,147-167.
- 阿部五月他.(2003). 発達初期の理解語彙の獲得()：家庭訪問調査(3). *発達研究*, **18**,
- 藤永保.(2001). *ことばはどこで育つか!*. 東京：大修館書店.
- 正高信男.(2001). *子どもはことばをからだで覚える:メロディから意味の世界へ*. 東京：中公新書.
- Mehler, J., & Dupoux, E. (2003). *赤ちゃんは知っている - 認知科学のフロンティア -* (加藤晴久・増茂和男, 訳). 東京：藤原書店.
- 荻野美佐子・小林晴美.(1999). 語彙獲得の初期発達. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.71-116). 京都：ミネルヴァ書房.
- 小椋たみ子.(1999). 語彙獲得の日米比較. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.143-194). 京都：ミネルヴァ書房.
- 田中規子他.(2001). 発達初期の理解語彙の獲得()：質問紙調査(1). *発達研究*, **16**, 1-14.
- 田中規子他.(2002). 発達初期の理解語彙の獲得()：質問紙調査(2). *発達研究*, **17**, 129-145.

<謝 辞>

育児記録の分析にあたって協力をして下さいましたICU国際基督教大学の村戸康人さん,佐藤友美さんに心から感謝いたします。

資料1 項目の説明と記入例

<記入上の注意>

毎日の記録

【コミュニケーションとことばの発達】

- * 発話前のお子さんは主に ~、発話後のお子さんは主に ~ についてご記入ください。
- * 記入上の注意：変化の時点（たとえば、1週間前は だったが、 になったなど）がわかるようにお書きください。

コミュニケーション行動

親子のコミュニケーション行動の中には当たり前のこととして見過ごされている行動もたくさんあります。たとえば、抱っこをすると泣きやむ、背中をトントンとたたくと眠りやすい、などです。気が付いたことがあれば書いてください。

発声行動

意味のわかることばを話さない赤ちゃんでも、生後2～3ヶ月頃から何らかの音声を発するようになります。1歳未満の子の発する、泣き声とげっぷ以外の音声はふつう、前言語的音声と総称され、音声言語の基礎となるものです。前言語的音声は段階に応じて以下のようにだいたい4つに分けられます。

- 1) 「クー」「アー」など、1音節のもの。(2ヶ月くらいから、目が覚めていて機嫌のいいときに聞かれる音声)
- 2) 「アーアー」など、2音節以上だが単純母音からなるもの。
- 3) 「バ」「マ」など、1音節の子音+母音。
- 4) 「バババ」「ダダ」など、複数の音節からなり、各音節が子音+母音で構成されているもの。

これらの音声があったら、具体的に記入してください。

泣き方、笑い方の変化

赤ちゃんの泣き方は月齢とともに変わってきます。泣き声がどのように変化したか、泣き方でどういう原因かわかるようになったとき、などを記入してください。また、生後すぐからは声を出して笑うことはできないと言われていました。いつ頃、どのような声で笑うようになったか、笑い声はどのように変化しているかを記入してください。

話しかけに対する反応、感情的な発声に対する反応

かなり小さいときから自分への話しかけには敏感に反応しています。話しかけたときの赤ちゃんの表情や視線、発した音声などを記入してください。また、感情的な発声（兄弟の泣き声など）に対してどのような反応があったか、気が付いたことがあれば記入してください。

家族の名前に対する反応

兄弟の名前など家族の名前が呼ばれると、キョロキョロと探するような動きが見られたりします。観察して気づいたことをご記入ください。

模倣 月齢によりいろいろな模倣がみられます。

* 初期の模倣：赤ちゃんは生まれついで目を見た動きについて模倣する能力が備わっていると言われていました。たとえば、新生児は唇の動きを模倣します。(赤ちゃんが目を見まわしているときに、顔と顔が30cmくらいの距離でしっかり見えるようにして、舌をゆっくりと何度も出したり引っ込めたりして見せると、赤ちゃんも舌を出すことがあります。)また、家族がごはんを食べているのを見て、口をモゴモゴさせることもあります。

* 相互模倣：赤ちゃんの発声（喃語など）や動作を大人が真似をして、それをまた赤ちゃんが真似をすることです。

* ジェスチャーの直接模倣：バイバイ、拍手などの身振りを真似する。

* 延滞模倣：見たことをすぐに真似するのではなく、しばらく時間がたってからすることです。たとえば、公園で大きい子がしていたことを家に帰ってから真似してやってみる、などです。

言語理解（耳で聞いてわかること、簡単な用事でできること）

赤ちゃんはことばを発するかなり前から、耳で聞いたことばを理解することができます。「マンマ」や「ダメ」などから始まって、だんだん理解できることばの数が増えていきます。また、1歳すぎの頃からは、「これをゴミ箱にポイしてきて」や「 を取って来て」などの簡単な用事もできるようになります。なるべく具体的に（どのような状況で、誰が言ったことばに対してかなど）記入してください。

指さしについて

0歳の後半になると指さしをするようになります。指さしはことばを話す前の子どもにとって重要なコミュニケーションの手段になります。どのような状況で、何を指さしたのか、そのときの子どもの視線や表情、同時に発したことばなどを記入してください。

ジェスチャーによる理解、ジェスチャーによる意思表示

赤ちゃんはことばと同様に身振り・手振りからもたくさんの情報を感じとっています。また、赤ちゃん自身もいろいろなジェスチャーを使って自分の意思を伝えようとします。たとえば、首を横に振って「嫌だ」という意思表示をします。また、おかあさんが「バイバイ」と言うと子どもが手を振ったり、逆に、おかあさんが手を振ると子どもが「バイバイ」と言う、などもあります。おかあさんと赤ちゃんだけにしか通じないジェスチャーもたくさんあります。具体的に記入してください。

発話内容

0歳後半になるとしきりに喃語を話すようになりますが、1歳過ぎた頃から意味のあることばを発するようになります。最初は聞き取りにくく、「ママ」なのか「マンマ」なのかわからなかったり、何を見ても「ババ」と言うような時期もあります。何を見てなんと言ったかなど記入してください。また、新しく言えるようになったことばや、2語文（「プー、いっちゃった」など）や3語文（「ババ、かいしゃ、いっちゃった」など）も書ける範囲でお書きください。月齢が高くなると書ききれなくなるかと思いますが、そのときは印象に残っている発話などをお書きください。

その他

気が付いたことなどご自由にお書きください。

< 記入例 >

【毎日の記録】

< コミュニケーションとことばの発達 >	
年	コミュニケーション行動 発声行動(ことばを発する前の音声・喃語の変化) 泣き方、笑い方の変化 話しかけに対する反応、感情的な発声に対する反応 家族の名前に対する反応 模倣
月度	言語理解(耳で聞いてわかること、簡単な用事でできること) 指さしについて(指さした物、状況、同時に発したことばなど) ジェスチャーによる理解・意思表示 発話内容(単語、2語文、3語文) その他
1	おなかがいっぱい、おむつも濡れていないのに泣きやまない、抱っこをしたら泣き止んだ。
2	機嫌のいいとき、手足をさかんに動かして、「アーアー」という声を出した。「マンマンマン...」、「ブー、ワー」などの声をよく出す。
3	おもちゃの電話を持って、「アイ、アーイ」などと話していた。ジュースを飲み干して、いかにもおいしかったのように「あー」と言った。
4	泣き声でおなかがすいているのかどうかわかるようになった。くすぐると口をあけてうれしそうに笑った。「ハッハッ」という声だった。
5	話しかけるとじっとこちらの顔を見た。兄が叱られている声を聞いて泣き出した。
6	おにいちゃんの名前を呼ぶと頭の向きを変えて、探すようなしぐさをした。
7	「ブーワッ」と何度か言ったので、真似して「ブーワッ」と言うとさらに繰り返して言うようになった。
8	「ばんざーい」と言って両手を上げると、真似をして両手を上げた。いつも母がしているように、鏡の前でブラシを頭に持っていった。
9	「マンマ食べようね」と声をかけるとうれしそうにした。危ない物に触ろうとしたので、「ダメ!」と言ったら、手を止めた。
10	「お口はどこ?」と言うと自分の口を指差す。「新聞を持って来て」というとその通りにできた。
11	散歩のとき、「アッ、アッ」と言いながら車を指差した。それから、母の顔をじっと見た。
12	だっこしてほしいとき、そばに来て両手を上げる。外に遊びに行きたくて、玄関から靴を持ってきた。
13	何か物を落としたときなど、「あーあ」と感情をこめて言った。リンゴを「ゴ」と言う。「ポーン」と言ってボールを投げる。
14	犬を見て「ワンワン」と言った。車を見て「ワンワン」と言った。「マンマ、ちょーだい」「パパ、お散歩、行こうよ。」
15	歌の好き嫌いが出てきた。ママが見えなくなると泣き出した。家族の持ち物を区別できるようになった。 など

(注)ここに挙げたようなこと以外にも、お子さんによって、月齢によって、さまざまなことが観察されると思います。
 ~ の項目はお子さんの行動を観察するときの指標となるよう提示しました。これに限らず気がついたことがあれば何でもお書きください。(詳しいことは別紙の記入上の注意をご覧ください)

資料2.分析カテゴリー

< 身体的発達・操作 >

項目	注	具体的な記述
空腹時の反応	反射的なもの 「意思表示」と区別	おなかがすくと手足をバタバタ 手を口に持っていき ミルクがほしいとき顔を少し上にあげ、 舌を出したり口を動かしたりする
音への反応	反射的なもの 純粋な物理音への反応	物音がするとビクッと手を上げる 大きな音に反応(ビクッとして驚いた表情) 音のする方を向いた(顔を動かした) 大きな物音に体がビクとする 音を鳴らすと耳をすましている様子 手をたたくとそちらに顔を向けた
動く物への興味・追視	視界に入ってきた刺激に対する 興味と追視	ぬいぐるみを目で追う 指を目で追う 人の気配に顔を動かす くるくる回るおもちゃを目で追う 部屋から出ようとする目で追う 近くを歩いている人を目で追う 人の顔を目で追う 音のするおもちゃを目で追う ベットに近づくとこちらを見る(目が合う) 扇風機をじっと見る ボールを転がすと目で追う ちょうちょが飛んでいるのを目で追う
視覚的探索行動 (自発的)	首や体の向きを変えて自発的に 興味ある物を探す	部屋の中をキョロキョロ見回す
手足の動き	道具を使わないもの	手を口に持っていき嘗める 手を耳に持っていき触る 手足をバタバタ 指を開いたり閉じたり 首を左右に動かす
ハンドリガード		手をじっと見た 自分の手・指をじっと見る 両手を合わせて遊ぶ 自分の足を不思議そうにじっと見る
目と手の協応 リーチング	調整行動を含む	哺乳瓶を近づけると手をのばす ガラガラをじっと見て手を伸ばす 絵をじっと見て手を伸ばす 欲しいおもちゃに手を伸ばした
把握		ガラガラを握った ガラガラに手を伸ばし握った 手にとったものを口へ持っていき
なだめ行動への反応	皮膚の刺激 パッティングなど	体をさすると喜ぶ、くすぐると笑う 背中をトントンすると眠る
手・指しゃぶり		
循環反応	個体内の反応	音の出るおもちゃを振り回して遊ぶ 手首にガラガラを巻いたら、よく動かした
積極的行為 寝返り・お座り	寝返りなどを含む	興味ある物に寝返りで近づき、手でさわ
移動		ずり這い
口の動き		口からぶくぶくツバを出している 唇を震わせてプーと言う
操作 (おもちゃ)	動機づけの要素を含む 働きかけの結果の認知 知覚的探索も含む (リーチングより高度)	おしゃぶりを手で持って口に入れたり出したりする 毛布を顔にかぶせるのが好き 一人で“いいいいいばあ” おもちゃで遊んでいるとき別のおもちゃを目の前に置くと、 持っていたおもちゃを置いて、新しいおもちゃを取る おもちゃを両手で受け取る ゴムボールを片手でつかめる おもちゃを左右の手で交互に持ちかえる パンダのぬいぐるみを長い間じっと見た
生理的反射	はっきりしているものに限る 匍匐・歩行反射	おしゃぶりを見せると口を開ける 歩行反射など

発達初期の理解語彙の獲得 ()

<コミュニケーション行動>

項目	注	具体的な記述
抱っこ		一人で放っておかれると大泣き。 戻ると落ち着き、抱っこすると泣き止む 抱っこすると泣くのをやめた(眠った) ぐずったとき抱くとおさまる 何をしても泣き止まないとき、祖父が抱くと泣き止んだ
名前への反応	「名前」という記述がある場合に限る	名前を呼ぶとそちらの方に目を動かす 名前を呼びかけたり、あやしたりしたら笑った 手をたたきながら名前を呼ぶと音の方を向いた 名前を呼んだら泣き止んだ 名前を呼ぶとこちらを向く
話しかけ または 大人の発声への反応		話しかけるとじっと目を見て聞いている 話しかけると顔をじっと見た(焦点が合ってきた) 語りかけるとじっと目を見て、ぐずっていても落ち着く 声を聞き分けているのかじっと聞いているような気がする 聞き慣れた声なのか父母の声を聞くと わかっているかのようなだった お姉ちゃんの話すことをじっと聞く
話者の口への注視		動物の鳴き声をすると動きを止めて口元を見る
話しかけに対する 体の動きを伴う反応		泣いているとき声をかけると一端ピタッと泣き止む(また泣く) 声をかけると口を突き出して手足をバタバタさせる 話しかけると首をこちらに向けた 見えないところから声をかけると頭を動かして探す
舌だし模倣		ペロペロバアーをしたら自分の口を動かした (舌を出そうと動かしている様子) 目を合わせて舌を出していたら、たまに真似をしていた 舌を出して見せるとよく見て自分も舌を出す
音声連合刺激への反応	オルゴールメリー、テレビ ビデオ、小さなロボット等	オルゴールメリーが止まると泣き出し、 再び動かしたら泣き止んだ テレビの画面をじっと見る
表情への反応と感情表出	表情 人の顔への興味 模倣 感情の表出	よく笑うようになり表情が豊かになった 顔をのぞきこむと笑う じっと顔を見る 表情の模倣をよくする
泣き方の変化		げっぷ、オムツ、おなかがすいたときで泣き方が違う
意思表示	拒否反応を主体として 要求 意思表示が明確な場合	ミルクを飲みたくないとき、両手でビンを押してくる 遊んでいるおもちゃを取り上げると泣いて怒る 母が食べているものをアーンと口をあけて欲しがる
人への興味	人の区別 (弁別反応も含めて)	姿が見えなくなると泣き、見えると泣き止む 姿が見えないとキョロキョロして探す メガネをかけている祖父の顔を見て泣く 母と祖母で返事の仕方に差があるようだ
鏡への反応 模倣		鏡を見せると笑う 話しかけたり歌ったりすると口元をじっと見て、口をバクバクする 家族の食事のとき口をもごもごさせる 「あーあー」と言う「あーあー」と言う 声の変化を真似する(「あー」「あー」) 隣の子が泣いているのを見て自分も泣く
循環模倣	親子間の相互模倣	「イー」「アウツ」と言っていたので同じように言ったら真似をした
信号行動の理解	反射 表情以外の表出行為 言語理解(動作を伴う場合)	そばに寄って手を伸ばすと抱っこされるのがわかりニコニコする 抱き上げようと両手を差し出すと、両手を前に出してきた 相づちを打つとよく声を出す 「あーん」と言うと大きく口を開ける コップを持っていくとアーンと大きく口を開ける 「おいで」と言うとパッと前に手を出した
感情的発声への反応		兄が叱られているとき、ギャーと泣き出した 泣き声を真似ると泣き止んだ 声色を変えて絵本を読んだら泣き止んだ 隣の子が泣いているのを見て自分も泣く
人見知り		
発声の変化		まるで話しているかのような感じになった
社会的遊び	大人の働きかけへの反応	高い高いをすると喜び "いないいないばあ"をすると喜び
好み	個性化・くせ	好きなおもちゃ(食べ物、哺乳瓶の乳首、タオルなど)が はっきりしてくる

<発声行動>

項目		注	具体的な記述
クーイング			「クー」「アー」など
喃 語	1音節の母音		「アー」「ウー」など
	2音節以上だが各音節が母音からなるもの		「アーアー」など
	子音+母音で構成されているが1音節のもの		「バ」「マ」「ダ」など
	複数の音節からなり、各音節が子音+母音で構成されているもの		「パパバ」「ダダ」など
	その他		
有意 味 語	初語		
	名詞		
	動詞		
	形容詞		
	擬音語・擬態語		
文	その他		
	2語文		
	3語文		

<学習項目>

項目	注	具体的な記述
絵本		絵本を読むと声に反応する
歌		くずったとき童謡を歌うと泣き止んだ 初めて童謡のCDをかけたとき、動きが止まってじっと聞いているようだった 歌(童謡)を歌ったら泣き止んだ 歌を歌うと「あーあー」と言っていっしょに歌おうとする 歌を歌うと目と口をじーっと見ていた 音楽をかけると泣き止み終わると泣いて教える カードを見せて歌うと足をバタつかせて喜ぶ
数唱		
カード		